

研究成果を発表！

第44回 全国自治体病院学会

平成17年10月13、14日、地域医療の展望を拓く～阪神・淡路大震災10年 神戸からの発信～をテーマに、第44回全国自治体病院学会が、兵庫県神戸市ポートアイランドにて開催されました。

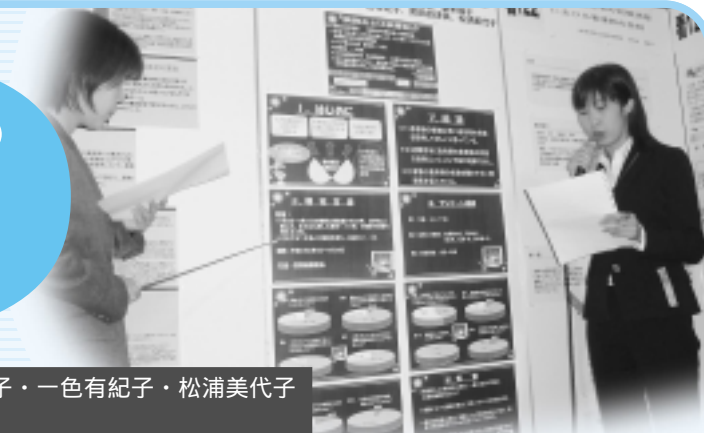
当院からは、看護師と医療助手が参加し、日頃の貴重な経験や研究成果について演題発表を行いました。発表までには、院内で2回の練習発表も行われ、内容について様々な角度から検討が重ねられました。

今回の特集では、その研究発表の内容と学会の様態をお知らせします。会場ではいずれの演題も、各病院から注目を集め、活発な質疑応答が交わられました。



演題 1

重症室に入院する患者様の家族が看護師に望むこと



看護部病棟2階東病棟 和田久美・黒田加津美・堀川綾子・一色有紀子・松浦美代子
発表 柴原悠子・栗田佳美

1 はじめに

私たちは、重症患者様の安全を守るため救急管理の手順書を作成し、マニュアル化することで統一した看護処置を提供し、患者のケア、家族への配慮も行ってきました。しかし、重症室に入院中の家族から、不安な気持ちを抱えたまま付き添っているという声が聞こえます。

そこで、急性期の患者様の家族が何を看護師に望んでいるのかを知るために、患者様の家族にアンケート調査を行いました。

2 研究方法

対象者は、7月1日から8月31日までに救急室から220号、235号に入院された患者様及びそのご家族で、承諾をいただいた22名。このうち18名が回答されました。質問用紙に記入して頂く形で、アンケートを行い、集計及び分析をしました。

3 結果

面会に来られるご家族は、20から70歳と年齢はまちまちでした。患者様との関係は、毎日面会に来られるかたの60%が「配偶者」のかたでした。

面会に来て「患者様の状態を理解できますか？」の問いに、過半数の

かたが「理解できる」と答えていますが、70%のかたは、「理解できていないが、面会のたびに状態を説明してほしい」と思っています。

「心配や不安を看護師に伝えられた」かたが70%、そして「患者様の処置の手伝いに参加したい」と答えたかたが60%いました。

看護師の態度や印象などは、70%以上のかたが「良い」と答えています。

患者様のご家族は常に状態の説明を求めておりながらも、近親者のかたほど急性期の状態を受容しにくいようです。

4 考察

患者様のご家族にとって、情報不足は不安やストレスを増強する原因。今後、精神面でのケアの充足のため、コミュニケーション技術と知識を高め、家族の精神的負担を軽減し、看護を提供してゆくことが必要と思われまます。

